

皿倉小福田先生が道徳の授業を行いました！

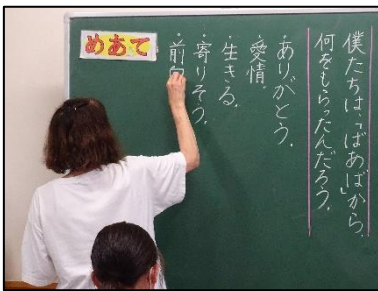
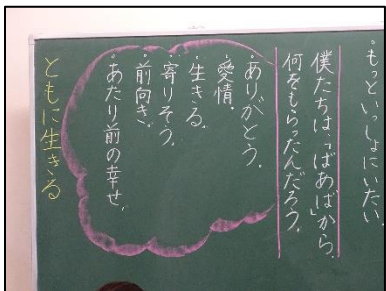
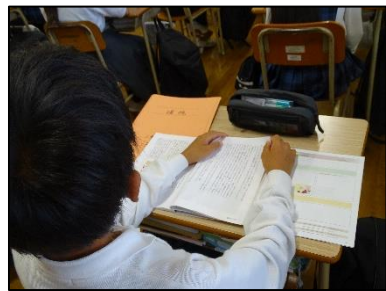
皿倉小学校福田絹子先生が6月14日(火)1年1組で、6月28日(火)1年2組で道徳の授業を行いました。(1年1組担任の朴木先生は福田先生の教え子です！)

久しぶりの福田先生との出会いで、1年生は懐かしく思えたのか、普段以上に一生懸命道徳の授業に取り組みました。

今回の「ばあば」のあらすじは、「曾祖母『ばあば』を家に迎えた『僕』たち家族。ともに生き、天寿を全うした『ばあば』から、いろいろなことをもらっていたと気付きます」道徳の内容項目は、「生命の尊さ」に該当します。この授業では、「生命は連綿とつながっており、関わり合い、支え合ってきたことを深く自覚するとともに、与えられた生命をせいっぱい生きようとする態度」を養います。

この題材では、次のお母さんと僕のことばが大切な要素になっています。

- 「死んだ子どもとじいちゃんのところへ、はよう行きたい・・・。」というのが「ばあば」の口癖だった。
- 母は、「ばあばが何をいちばん思っているか、考えてごらん。」と言った。
- 母がぼつりと言った。「ばあばがいなくなって、なんだか心にぼっかり穴があいたみたい。私たちは、ばあばにいろいろしてあげていると思っていたけれど、ばあばからもらっていることのほうが、いっぱいあったのね・・・。」僕もそう思った。
- 短い時間でしたが、1年生は、「共に生きることの意味」について考えることができたと思います。今度は皿倉小のどの先生が授業をしてくれるでしょうか。楽しみです。



次の歌は、最後のまとめの時に、福田先生が掛けてくれた歌の歌詞です。もう一度じっくり読んでみましょう。校長先生も「おじいちゃんっ子」でしたので、おじいちゃんとの思い出はたくさんあります。「一緒に釣りに行ったこと」「釣り道具をつくってくれたこと」「一緒にテレビで相撲を見たこと」「一緒に旅行に行ったこと」などなど。今も、先生のことを遠い空から見守ってくれていると信じて、毎日を頑張っています。ありがとう、おじいちゃん！

「お前の隣を共に歩いてく お母さんが来るまで死なないよ」
 笑いながら言うあなたに 背を向けて僕は泣いていた

消毒が鼻を突く 祖母の部屋はどこですか？
 静脈の浮き出た腕 ぼつんとひとり あなたはいた

大切に たた大切に あなたとの思い出はとても愛しくて
 いかなくて まだいかなくて 見せたいものがもつともつとあるんだよ

顔を見れば小言は絶えず うるせえな！と箸を叩き付けた
 冷めた夕飯 片付け遊んでた その背中にこめんな 言えなかった

ちゃんと食べてる？ お金はあるかい？ 今はその声も細くて
 もういいよ もういいよ もういいから 笑ってよ

大切に たた大切に 消えそうな笑顔 まぶたに焼き付けた
 点滅の光のように あなたの鼓動は穏やかに時を刻む

大好きで すっと大好きで くしゃくしゃの笑顔 すっと見ていたくて
 いかなくて まだいかなくて いつからそんなに小さくなってしまったの？
 ベッドを少しずらしていいですか？
 舌から空がちよつとだけ見えるように
 見せたいものがもつともつとあるんだよ

僕の隣を共に歩いてく 大切な人の手を引いて
 バス停から続く坂道を あなたに会いに登ってくとこ

